

I. 令和2年度事業運営の特徴と課題

1-1 各保険事業の状況（清雅苑本体）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養 (稼働率)	R1年	91.7	94.2	94.5	95.5	95.6	95.0	93.9	92.8	93.3	94.1	95.3	95.2	94.2
	R2年	97.0	97.5	97.2	96.7	97.4	95.4	94.6	96.1	93.8	94.3	91.2	94.1	95.5
短期入所 (稼働率)	R1年	147.8	142.5	151.1	151.6	143.5	134.4	139.8	128.9	138.2	143.0	141.4	142.5	142.1
	R2年	133.3	90.9	102.8	127.4	129.6	146.1	153.8	113.9	130.6	125.3	116.7	110.2	123.4
施設計 (稼働率)	R1年	95.5	97.5	98.4	99.3	98.8	97.7	97.1	95.3	96.3	97.4	98.4	98.4	97.5
	R2年	99.4	97.1	97.6	98.8	99.6	98.9	98.6	97.3	96.3	96.5	93.0	95.2	97.4
通所 (稼働率)	R1年	89.0	93.0	90.4	85.8	86.9	88.3	88.5	89.3	88.0	89.7	87.1	85.9	88.5
	R2年	70.8	36.5	85.7	83.2	81.2	80.0	80.1	51.1	69.1	70.1	70.7	77.3	71.3
営業日数	R1年	25	27	26	26	27	25	27	26	25	24	24	26	25.7
	R2年	26	26	26	27	26	26	27	25	26	24	24	27	25.8
介護予防 プラン	R1年	255	259	258	263	262	266	278	277	277	270	272	272	267.4
	R2年	259	277	274	276	274	279	277	279	272	267	274	271	237.3
(直営)	R1年	102	109	110	113	107	112	114	110	89	81	83	84	101.2
	R2年	93	101	100	108	101	103	100	101	100	93	93	89	98.5
(委託)	R1年	153	150	148	150	155	154	164	167	188	189	189	188	166.3
	R2年	166	176	174	168	173	176	177	178	172	174	181	182	174.8

※平成29年度より、通所介護の一般型と認知症型を統合する。

1-2 各保険事業の状況（みやびやか旭） 平成23年5月開設

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
居宅介護 支援	R1年	121	124	126	127	124	127	126	128	126	128	124	115	124.8
	R2年	109	109	118	121	122	123	130	126	128	127	125	127	122.1
介護予 防プラン	R1年	21	22	20	20	20	19	20	20	20	20	15	14	19.3
	R2年	10	10	12	14	15	16	16	17	17	17	19	19	15.2
訪問介護 (時間)	R1年	1746	1760	1605	1806	1746	1673	1815	1740	1764	1634	1611	1743	1720.1
	R2年	1718.5	1658	1867.5	1937	1753.3	1754	1931	1869.5	1962.3	1729.8	1719.5	1926.8	1818.9
営業日 数	R1年	25	27	26	26	27	25	27	26	25	24	24	26	25.7
	R2年	26	26	26	27	26	26	27	25	26	24	24	27	25.8

※1 居宅介護支援・介護予防プランの数値は、ケアプラン作成件数を表示

※2 平成29年より居宅介護支援をみやびやか旭に統合する。

2-1 介護老人福祉施設の利用状況

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で、様々な事に制限がかけられ、ご利用者、ご家族、関係者の皆様にご迷惑、ご心配をおかけしてしまいました。またショートステイに関しましても、受け入れ制限をせざるを得ない状況になり、入退所を極力少なくして受け入れをさせて頂きました。令和2年度に関しては、退所が17件あり、入所が18件でした。新型コロナウイルスの影響で、退所してから入所までの時間を要した事、入院者も多くいらっしゃり、特養ベッドが安定しませんでした。また、ショートステイに関しても、受入れに制限をかけざるを得ない状況だった為、特養の空床をショートステイでご利用して頂けるまでには至りませんでした。

令和2年度は、入所：18件、退所：17件、内7件は施設内での看取り介護を行いました。入退所件数は昨年より6件少ない状況でした。年間平均稼働は、95.5%と昨年度より1.3%高く推移しています。施設での看取りに関しては、昨年度より1件少ない7件でした。

2-2 短期入所生活介護の利用状況

平均稼働率は123.4%と18.7%減少しました。新型コロナウイルスの影響で、受け入れ制限をしなければならぬ状況になり、特養ベッドの空床を利用しての受け入れが出来なかった事が稼働の低下につながったと考えられます。受け入れに際しては、引き続きPCR検査の実施を実施していき、感染のリスクを低くして受け入れ出来るように努めていきたいと考えています。

2-3 通所介護の利用状況

令和3年度は大規模Iから通常規模に変更して運営を行っております。

新型コロナウイルス感染症の影響により、ご利用自体を控える方が目立ちました。また新規申し込みを控える方も多くおられたのではと考えられます。ご利用中の方でも特に独居の方などは、ご家族の訪問が減ったり極端に外出の機会も減った方などおいて生活が変わり体調の不良や認知症状の悪化などによる長期のお休み、状態の変化なども目立った年でした。平均ご利用人数は昨年と比べ32.2人/日と6人近く減少しております。平均稼働率では17.2%の低下でした。稼働に一番大きく影響とした出来事として5月にご利用者家族にコロナ陽性者が出て7日間の営業中止とその後12日間の縮小営業を行いました。加えて11月にはご利用者にコロナ陽性の発症があり8日間の営業中止となりました。逆に定期的に新規の問い合わせが集中することもありました。理由の中に急な認知症状の進行で介護保険の申請をされてデイ利用に繋がった方、他のデイサービスがコロナ禍で終了してしまい期間を少し空けてから申し込まれた方などもおられます。いずれにせよ新型コロナウイルスが大きく影響した年で、次年度もこの状況は続くと考えます。感染症予防対策をしっかりと行い、安心安全に営業を続けられるデイサービスを継続してまいります。

2-4 きよせ清雅地域包括支援センターの活動状況

職員体制は、管理者1名、主任介護支援専門員1名、社会福祉士2名、看護師1名、の計5名体制で業務を遂行しています。事業に関しましては清瀬市地域包括支援センターの運営事業・計画また契約内容に則り、地域包括支援センターが公正・中立な立場を確保し、示された業務を円滑かつ適正に進めて参りました。

しかし、開催物に関しましてはコロナウィルス感染症対策のため中止や見合わせにせざる得ないものも多くございました。今年度は管轄するエリアから直営のご利用者のコロナウィルス感染症罹患者はなかったですが、困難ケースで介護支援専門員の担当についている方が感染者となり、包括支援センターとしての働きを考えさせられる場面がありました。施設のBCPに包括支援センターの流れも作成致しました。しかし、個々のケースの感染者が出た場合の動きとした場合は曖昧なもので、対応策の詳細は考えるべきものと課題は残っています。

平成29年度から始めた「アウトリーチ事業」は年々増え続ける80歳以上の独居高齢者に加え、80歳以上と70歳以上の同居者がいらっしゃる世帯もアウトリーチの対象者として枠を広げ、前年度に連絡先の確保が出来ている方の安否確認も加わり更に事業として厚みを増しています。

虐待の件数は昨年に増して、多い月では実人数13名の対応を致しました。コロナウィルス蔓延の影響か同居の子からの経済的虐待やアルコールの飲酒による暴力が増えています。昨年同様に同居の子に対する明確な支援を示す担当部署がなく対応策を模索し、苦慮しながら問題解決に向けて対応しています。

予防プランに関しては、居宅の委託事業者の請負がないのは前年同様に苦慮が続いております。加えて、11月から職員一名が欠員となり、欠員担当分の直営のケース及び委託分を職員全員で案分し、何とか実績を減らすことなく保つことができています。

「生活支援コーディネーター」業務では課題であった新規「2層協議体」の立ち上げ実績としています。

他、コロナ禍の中でも10の筋トレの広報を行い新たな活動拠点をづくりだしています。また、地域とつな

がりを持つ意味も含め「せいが中里元気塾」の担当を精力的に行い、コロナ禍においても実績を上げています。そして、今年度目標とした、広報誌「清雅包括つながり通信」を創刊し、包括支援センターの業務内容を3月に広く配布しています。

2-5 居宅介護支援事業（みやびやか旭）の利用状況

育児休暇を取得していた常勤職員1名が復帰し、5月以降は担当件数が徐々に回復しています。

令和2年11月からは、特定事業所加算Ⅱの算定を開始したこともあり、月次の収支が大幅に改善しています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、ケアマネジメントのあり方に大きな疑問が提起された1年間でした。感染症流行下における事業の継続性を担保するため、在宅勤務の導入に必要な環境を整えていただきました。

独居生活で体調を崩したケースなど、新型コロナウイルス感染症流行下で、誰がどのように対応したらよいか、明確な答えのない場面も日々遭遇していますが、職員、ご利用者、ご家族の感染予防に務めながら、ご利用者の在宅生活の支援を続けてまいります。

2-6 訪問介護事業（みやびやか旭）の利用状況

令和2年4月から令和3年3月までの派遣時間総数は21827.15時間でした。月平均で1,818.9時間ほどになっています。昨年度より98.8時間増加しました。

高齢化に伴い訪問介護へのニーズは高まっております。登録ヘルパーは令和3年3月時点で38名在籍しています。

5月はコロナウイルス流行に伴い緊急事態宣言が発令され、ヘルパーの利用を控えるケースが目立ちました。どうしたら支援を継続しつつ、ご利用者とヘルパーの安全を保つことができるか考えサービス提供責任者を2つのグループに分け、もしもの時にも途切れず支援ができる体制づくりを行いました。

8月、9月は要介護の高いご利用者が施設入所するケースが続きました。在宅生活を無事に支援し、入所につなげることができたことは、ヘルパー一人ひとりのきめ細やかな支援によるものだと思っております。

1月には2回目の緊急事態宣言が発令され、新規の相談は減少しました。近隣のサービス事業所、関係機関などでもコロナウイルス陽性者が発生し、シフトを調整する状況が続きましたが、途切れず継続的に支援できたことを誇りに思います。

コロナウイルス収束にはもう少し時間がかかりそうですが、基本的（マスク着用、手洗い、換気、密な環境を避け）なことをしっかりと実践してまいります。